

掘りday はちのへ

－八戸市埋蔵文化財ニュース第16号－



石皿の裏面



竪穴住居跡から石皿が割れた状態で出土しました。



石皿の側面

珍しい三脚の石皿を発見！ ～^{たしる}田代遺跡～

田代遺跡は、八戸市南郷区にある遺跡です。縄文時代中期末の竪穴住居跡から、三脚の石皿が発見されました。石皿は裏面に3つの脚が付き、そのうちの1つは低くつくられていて、真ん中に1本線が入っているようにみえます。石皿の3つの脚のうち、2つ並んでいる部分は胸、もう1つはおなか、真ん中の線は正中線せいちゅうせんと考えると、板状土偶ばんじょうどくうの特徴とよく似ています。板状土偶は、胸よりおなか（おへそ）が低くつくられています。これらの特徴から、縄文時代前期・中期の板状土偶をま

ねてつくられた可能性もあります。石皿の本来の使いみちは、木の実などをすりつぶしたりするための作業台でした。この石皿の表面にも使用した痕跡があります。作業がしやすいように、1つの脚を低くしたのかもしれませんが。どちらにしても、三脚の石皿は出土例が少なく、貴重な発見となりました。（村木 淳）

※右の写真はイメージです



縄文時代と弥生時代のムラ～^{たしろ}田代遺跡～

田代遺跡は、八戸市南郷区大字島守字番屋に所在し、階上岳から連なる標高約 220 m の丘陵地に立地します。縄文時代中期末～後期初頭を中心とする遺跡です。平成 16・17・21 年度に、青森県埋蔵文化財調査センターによって行われた発掘調査で集落の様相が明らかになりました。八戸市では、平成 23・24 年度に約 3,100 m²を調査しました。その結果、縄文時代中期末から後期前半の竪穴住居跡 14 棟・土坑 37 基・屋外炉 3 基、弥生時代前期後半の竪穴住居跡 2 棟・土坑 1 基がみつかりました。

縄文時代中期末から後期初頭の竪穴住居跡には、「^{ふくしきろ}複式炉」とよばれる炉があります。複式炉とは、火を焚く部分が複数あり、作業場がつく炉のことをいいます。とくに、縄文時代中期の終わり頃に、東北地方や北陸地方の竪穴住居でさかんに造られていたようです。田代遺跡では、周囲を石で囲った炉（^{いしがこいろ}石囲炉）と作業場を組み合わせたものが多くみつかりました。火を焚く部分が 1 つしかありませんが、炉と作業場の 2 つの部分から構成されているため、複式炉の形態と考えられています。竪穴住居跡からは、煮炊きに使われた土器や、漆液を保存していた土器がみつかりました。三脚の石皿や土製の耳飾り、キノコの形をした土製品などもあります。

弥生時代前期後半の竪穴住居跡は、径約 7 m の大型・径約 5 m の中型のものがたり合っ

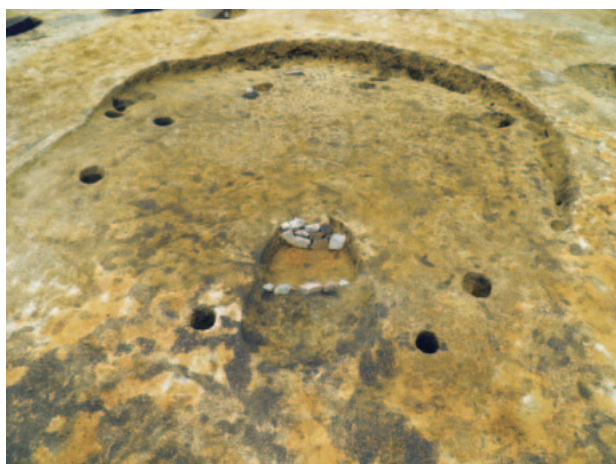


平成 24 年度 田代遺跡調査区

みつかりました。どちらも円形で、4 本の主柱穴をもち、壁際には土留めの板材を支えた杭のあとがありました。住居の中央には石囲炉や土器埋設炉が作られています。これらは、八戸地域の弥生時代前期の竪穴住居跡によくみられる特徴です。また、この時期は、竪穴住居数棟の小さなムラをつくる傾向があるようです。

大型竪穴住居跡の埋土の最上層には、今から約 1,100 年前（平安時代）に降った火山灰が堆積していました。このことから、住居が埋まり切るのには、長い期間を要したことが分かります。下層からは、弥生時代中期後半の土器が出土しました。住居跡が使われなくなった後に廃棄されたか、流れこんだものと考えられます。このことから、中期にも人々が活動していたことがわかりました。

（田中 美穂）



複式炉をもつ竪穴住居跡（縄文時代中期末）



土器埋設炉をもつ大型竪穴住居跡（弥生時代前期後半）

中世城館の調査～新井田古館遺跡～

新井田古館遺跡は、八戸市南東部の新井田地区に位置し、縄文時代・古代・中世・近世の遺構・遺物が検出されています。遺跡の南側には、根城南部氏の一族、新田氏の居城である新田城（館平遺跡）があります。

これまでの調査で、堀や土塁で区画された空間に多くの掘立柱建物や竪穴建物が営まれた中世城館であることがわかっており、城館内が溝で区画される第1期（15世紀頃）、堀と土塁で大規模な区画（郭）が作られる第2期（15～16世紀）、郭内部の溝が埋め戻される第3期（17世紀後半以降）の3時期に大きく分けられます。特に、土塁と堀に囲まれた遺跡北西の一角には、多くの掘立柱建物跡や竪穴建物跡がみつまっていることから、城館の中心部分と考えられています。

平成24年度は、アパート建築に先立って遺跡中央に位置する2地点（26・27地点）の発掘調査



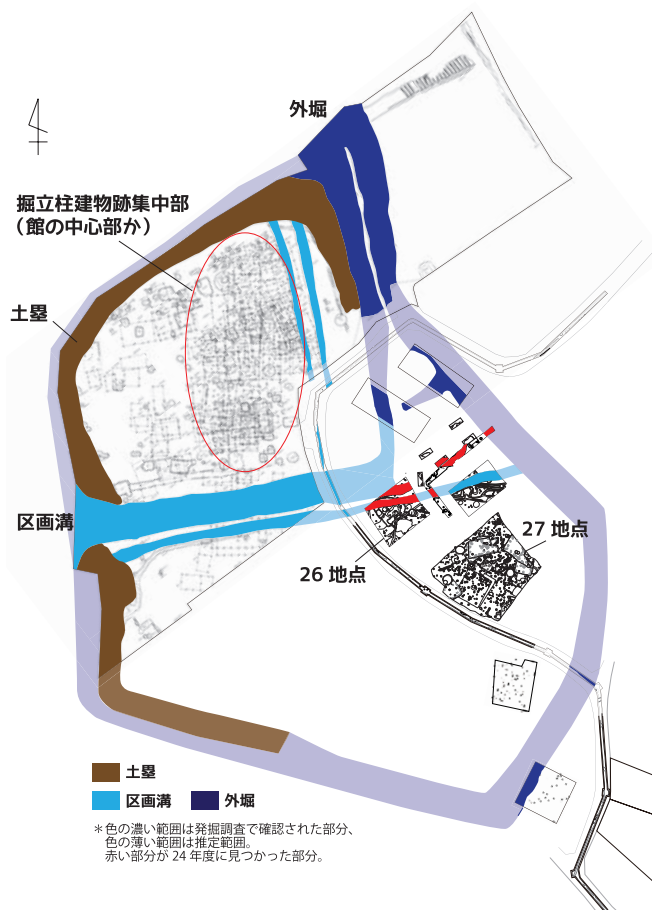
溝跡（左）と郭内の区画溝（右）

を実施し、中近世の掘立柱建物跡・竪穴建物跡・土坑墓・井戸跡・溝跡や多くの柱穴がみつかりました。これまでの調査成果を検討した結果、26地点北側で検出した溝跡は、城館の外堀・城館内の区画溝の一部であることがわかりました。

26地点中央でみつかった東西方向の溝跡は、2条並んでいます。以前の調査成果とあわせると、南側の溝は15世紀頃（第1期）、北側の溝は15～16世紀（第2期）の城館内の区画溝と考えられます。南側に位置する27地点では、中世～近世の柱穴が多数検出され、掘立柱建物跡9棟と塀跡・柵列跡2条を復元しました。このほか、奈良時代の竪穴住居跡や近世の竪穴建物跡・土坑墓・井戸跡もみつっています。

出土遺物は、奈良時代、15～16世紀代、18・19世紀代の3つのまとまりがみられました。15～16世紀代の遺物は、中国産の青磁碗・皿、青白磁瓶類、白磁皿、染付皿と、瀬戸産陶器皿で、15世紀代の遺物が中心です。城館の中心部にあたる過去の調査地点では、中国産の陶磁器とともに国産の陶磁器や瓦質土器が出土しています。城館の中心部と今回の調査区とは溝によって区画されているため、出土遺物の違いは城館内の性格の違いによるものかもしれません。

新井田古館遺跡では25年度以降も調査を予定しているため、今後の調査によって城館内部の建物配置や変遷を、明らかにすることができるとも思われます。（船場 昌子）



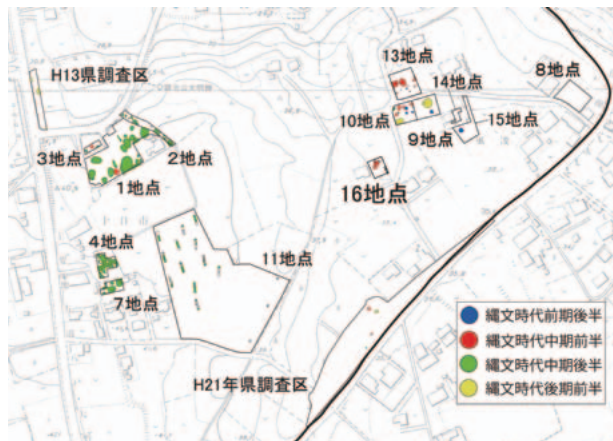
新井田古館遺跡の堀・土塁

ど き ま い せ つ ろ ま つ が さ き 土器埋設炉をもつ住居跡～松ヶ崎遺跡～

松ヶ崎遺跡は、八戸市庁から南東約4kmに位置する縄文時代を中心とする遺跡です。遺跡の北西に新井田川、東を支流である松館川が流れ、川に挟まれた標高22～45mほどの丘陵突端部に立地します。これまでに約90棟もの竪穴住居跡がみつかった縄文時代中期の大規模な集落です。平成24年度の調査では、縄文時代前期末から中期前半の竪穴住居跡4棟と土坑3基を検出しました。遺構の中で特に注目されるのが、住居の中央に一段低い床を作り、土器埋設炉がついたものです。このタイプの住居は八戸市周辺には少なく、ほぼ同時期の函館市大船C遺跡や青森市三内丸山遺跡などに類例がみられます。これまでの調査により、縄文時代前期後半と中期前半の住居跡が遺跡東側（松館川寄り）に、中期後半の住居跡が遺跡中央（新井田川寄り）にそれぞれ集中すること、縄文時代中期末から後期前葉には住居跡が遺跡中央から北、東、南東端に広がる傾向がわかっており、松ヶ崎遺跡の集落変遷の様相が明らかになってきています。（横山 寛剛）



中央に一段低い床と土器埋設炉をもつ竪穴住居跡
(縄文時代中期前半)



松ヶ崎遺跡の遺構分布（時期別に色分け）

と こ な め や き た て ひ ら 平安時代末期の常滑焼が出土～館平遺跡～

新井田川右岸に位置する縄文時代・平安時代・中世の遺跡です。縄文時代早期の白浜式土器の標式遺跡として知られ、中世には新田城が築かれていました。今回の調査では、竪穴遺構から、12世紀後半（平安時代末期）の常滑焼大甕の破片が出土しました。



常滑焼大甕の破片

出土した遺物は、大甕の底に近い部分で、外面には押印文（スタンプ）がみられます。12世紀代の常滑焼は、東北地方では岩手県平泉町で大量に出土しており、奥州藤原氏とのつながりが指摘されています。青森県では奥大道路に沿って現在の津軽地方で多く出土しています。

八戸市内での常滑焼の出土例は、根城跡本丸・大仏遺跡など数例しかなく、同時期の他の遺物も少ないため、平安時代末期の八戸を探る貴重な資料です。（船場 昌子）

※奥大道路…白河の関（福島県白河市）から外浜（青森県）へ至る中世の官道。「吾妻鏡」に記されている。

平成 24 年度八戸市遺跡調査報告会

八戸市内の遺跡発掘調査の主な成果を発表する遺跡調査報告会を、平成 24 年 11 月 17 日に是川縄文館で開催しました。報告会では、縄文時代の松ヶ崎遺跡（十日市地区）、縄文・弥生時代の田代遺跡（南郷区）、室町～江戸時代の新井田古館遺跡（新井田地区）の 3 遺跡の調査成果について当館学芸員による報告が行なわれました。

また、今回、特別報告として、岩手県軽米町教育委員会の協力を得て、軽米町袖の平遺跡を取り上げました。^{そで}袖の平遺跡は八戸周辺でほとんどみつかっていない鎌倉時代の遺跡で、きわめて貴重な事例です。袖の平遺跡の発掘調査成果とその歴史的意義について、発掘調査を担当した軽米町教育委員会の藤田直行氏に熱く語っていただきました。

報告会には、約 80 人もの大勢の市民の方にご来場いただき、大盛況のうちに終了しました。（杉山 陽亮）



遺物展示会場のようす



藤田氏による軽米町袖の平遺跡の報告

是川遺跡の研究者たち ②^は^せ^べ^{こと}^{んど}長谷部言人

^{これかわ}是川遺跡と言え、漆塗り製品が出土する^{なか}中居遺跡が有名ですが、大正の終わりに一王^{いちおう}寺遺跡の発掘調査を行った人物がいます。それは、^は^せ^べ^{こと}^{んど}長谷部言人という人類学者です。

長谷部は明治 15 年、東京に生まれ、明治 39 年に東京帝国大学医科大学を卒業しています。そのころ、^{つばいしやうごろう}坪井正五郎が創設した東京大学理学部人類学教室に出入りし、人類学に関心を持ち、同世代の^{いしだしゅうぞう}石田収蔵（是川遺跡の最初の調査者）にも知り合ったと思われます。長谷部の専門は、形質人類学（人骨）ですが、動物考古学などにも興味を持ち、多くの研究報告書を執筆しています。

大正 9 年、東北帝国大学医学部教授に就任

したのを契期とし、東北地方の貝塚の発掘調査を行い、人骨や出土遺物の研究を行っています。このころ、八戸市在住の^{さわだくまじろう}澤田熊次郎（^{あやじろう}山斐次郎の実兄）と出会い、^{ふきあげ}吹上貝塚（^{ちようしちやち}長七谷地貝塚）の調査も行っています。

また、大正 15 年 4 月に中居貝塚（現一王寺（1）遺跡）の発掘調査を行い、出土した土器のほとんどは、細長い円筒の形をしていることから、初めて「^{えんとう}円筒土器」という名前が使われました。

現在でも、円筒土器は縄文時代前期・中期の東北地方を代表する土器となっています。そして、「円筒土器」という名前の発祥の地は、是川遺跡となっています。（村木 淳）



特別展「発掘された日本列島 2012」

開催期間：8月8日（水）～9月17日（月）

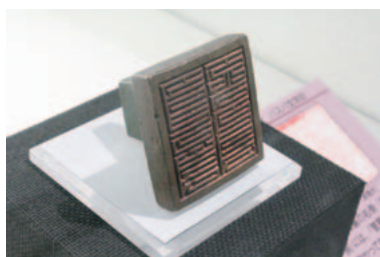
「発掘された日本列島展」は、文化庁が主催する日本全国から注目の遺跡・遺物を集めて速報展示する全国巡回展です。八戸では、第1回会場（'95 八戸市博物館）となって以来、17年ぶりの開催となりました。展示品の種類と量が多かったため、企画展示室のほかに、もう一つ展示室を設けて2室で展示しました。旧石器から明治まで各時代の遺物が一度に見られ、関西や九州といった他地域の最新の発掘成果がわかる大規模な展示となりました。

この特別展の地域展示として八戸市博物館では特別展「縄文人の一生」が開催されました。是川縄文館と観覧券を共通とし、土・日・祝日は両館を結ぶ無料シャトルバスを運行するなどの連携に取り組みました。

（小久保 拓也）



経塚出土品（経筒・鏡・短刀など）
堂ヶ谷経塚出土。中世の山寺跡の近くから、お経を納めた容器のほか、銅鏡や刀などが大量に出土しました。特製のケースで入り口正面に一括展示しました。



パスパ文字印
元王朝の官軍であることを示す印章。日本を襲った元寇船が沈む鷹島神崎遺跡（海中遺跡）からは、てつはう（炸裂弾）など絵巻物にある遺物が出土しました。



曲物容器（胞衣箱）
松江城下町遺跡の出土品。へその緒が納められ、丁寧に埋められていました。箱のふたには、徳川家とのゆかりを示す、葵の御紋が描かれています。

秋季企画展「縄文のストーンサークル」

開催期間：10月13日（土）～11月25日（日）

縄文時代の記念物であるストーンサークル（環状列石）を紹介した企画展です。ストーンサークルから出土した足形付の土製品など変わった遺物を紹介したほか、立体的な構造が伝わるよう、ストーンサークルの模型などを展示しました。さらに、同時期のイギリスで造られていたストーンサークルやストーンヘンジを比較しながら紹介しました。

また、重さやつくりなどが触って理解できるように、小牧野遺跡環状列石（青森市）の本物の石を持ち上げられる「ストーンサークルの石をさわってみよう」のほか、ウレタンブロックを巨石に見立てた「ストーンヘンジをつくってみよう」をハンズオン（さわる）展示しました。

（小久保 拓也）



日時計状組石の模型
秋田県大湯環状列石は、2つの環状列石が並ぶ遺跡です。それぞれの環状列石には日時計状組石が作られており、それらを見通す方向に夏至の太陽が沈むように設計されています。



ストーンヘンジをつくってみようコーナー
ストーンヘンジは、最大で40tもの巨石を地面に立て円形に並べ、周囲にはヘンジという堀が巡っています。ぼうだいな労力が注ぎ込まれている世界で最も有名なストーンサークルです。



ストーンサークルの石をさわってみようコーナー
青森市小牧野遺跡のストーンサークルでは、平均12kgの石が約2400個並べられています。ハンズオンには20kg弱のものがあ、大人でも持ち上げるのは大変な重さです。

新しい^{たてあなじゅうきょ}竪穴住居ができました！

八戸市縄文学習館（是川縄文館分館）敷地内にある複製竪穴住居 1 棟の大規模な修繕が、20 年ぶりに行われました。この竪穴住居は、平成 4 年に組み立てられたもので、国宝「合掌土偶」がみつかった風張 1 遺跡の第 15 号竪穴住居跡がもとになっています。

竪穴住居づくりには、是川地区の有志で構成される是川文化財愛護会のみなさんが尽力されました。また、是川縄文館の教育普及活動を支援されている縄文是川ボランティアのみなさんも協力されました。平成 24 年 10 月から骨組みに使うクリの木や、屋根材となる



修繕された竪穴住居跡

萱や葦などの材料の調達がはじまり、12 月には竪穴住居の解体が行われました。積雪がやわらぐ 3 月から組み立てが進み、白い息をあげての作業の中、無事に竪穴住居が完成しました。新しく生まれ変わった竪穴住居をぜひご覧ください！

平成 25 年秋頃からは残りのもう 1 棟も改修します。めったにみることができない機会ですので、ご興味がある方はぜひ、是川縄文館にお問い合わせの上、八戸市縄文学習館までお越しください。（市川 健夫）



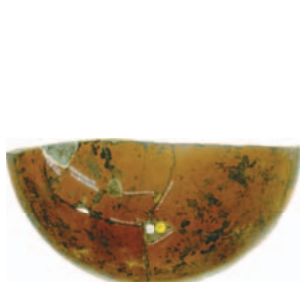
竪穴住居組み立てのようす

是川遺跡出土品保存修理事業

平成 23 年に是川遺跡出土品 330 点が、重要文化財に追加指定されました。指定品の中には、木製品や漆製品があり、発掘調査後に保存処理を行いましたが、欠損部や脆弱^{ぜいじゃく}な部分が多数残っています。また、土器や石製品等は、石膏の充填^{せつこう}や接合部の剥離^{はくり}等で展示品としての美観を損ねています。そこで、出土品本来の姿を忠実に再現し、色彩も美観を損ねないように補修を行い、脆弱^{ぜいじゃく}な部分の強化と遺物にあわせた保存台製作を 5 か年計画で予定しています。

平成 24 年度は、漆製品・木製品 10 点の修理・台座製作を行いました。

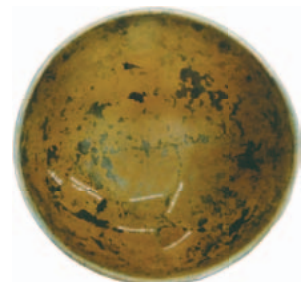
（村木 淳）



修理前



修理前樹脂充填



完成



平成 24 年度 八戸市内発掘調査一覧

	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	主な時代
市内遺跡発掘調査事業	新井田古館遺跡第 26 地点	試掘	集合住宅建築	H24.4.5・6	61	中世・城館跡
	館平遺跡①	試掘	個人住宅建築	H24.4.10	14	縄文・集落跡
	櫛引遺跡	試掘	個人住宅建築	H24.4.11	15	縄文・集落跡
	狐平遺跡第 5 地点	試掘	集合住宅建築	H24.4.17・18	50	縄文・集落跡
	堀入遺跡隣接地	試掘	個人住宅建築	H24.4.19	4	縄文・散布地
	酒美平遺跡第 16 地点	試掘	個人住宅建築	H24.4.25	18	古代・集落跡
	駒木沢 (1) 遺跡隣接地	試掘	水辺整備	H24.5.8～5.11	44.5	縄文・散布地
	市子林遺跡	試掘	舗装・土留め	H24.5.11	11	古代・集落跡
	野馬小屋遺跡	試掘	整地	H24.5.12～5.24	656	縄文・集落跡
	新井田古館遺跡隣接地	試掘	個人住宅建築	H24.6.1	8	中世・城館跡
	八戸城跡	試掘	四阿建築	H24.6.12	6.95	近世・城館跡
	田面木遺跡第 42 地点	試掘	擁壁設置	H24.6.13～6.15	39.5	古代・集落跡
	新井田古館遺跡第 28 地点	試掘	集合住宅建築	H24.6.20～6.27	288	中世・城館跡
	丹内遺跡第 1 地点	試掘	按根	H24.7.3.～7.10	51	縄文・散布地
	新井田古館遺跡第 27 地点	試掘	集合住宅建築	H24.7.11	27	中世・城館跡
	館平遺跡第 24 地点	試掘	個人住宅建築	H24.7.13・14	29	縄文・集落跡
	一王寺 (1) 遺跡	試掘	排水管改良工事	H24.8.24～8.6	66	縄文・集落跡
	殿見遺跡隣接地	試掘	個人住宅建築	H24.8.8	19	平安・古墳
	酒美平遺跡第 17 地点	試掘	店舗建築	H24.8.24	203	奈良・集落跡
	冷水遺跡第 2 地点	試掘	福祉施設建設	H24.8.24	39	縄文・散布地
	松ヶ崎遺跡第 17 地点	試掘	個人住宅建築 (浄化槽設置)	H24.8.30	7.5	縄文・集落跡
	咽平遺跡	試掘	道路改良	H24.9.1 H24.11.8	32	縄文・散布地
	狼走 (2) 遺跡第 1 地点	試掘	鉄塔建設	H24.9.4～9.13	26.5	古代・集落跡
	北熊ノ沢 (2) 遺跡第 1 地点	試掘	鉄塔建設	H24.9.4～9.13	36	古代・集落跡
	鉄塔建設予定地内遺跡確認調査	試掘	鉄塔建設	H24.9.4・7	62	-
	上ノ沢遺跡	試掘	道路改良	H24.9.14～9.21	16.5	縄文・散布地
	雷遺跡隣接地	試掘	個人住宅建築	H24.10.5	15	縄文・散布地
	酒美平遺跡	試掘	個人住宅建築	H24.10.24	23	奈良・集落跡
	八幡遺跡隣接地	試掘	貸店舗建築	H24.10.30・31 H24.12.4	15.7	縄文・集落跡
	館平遺跡第 25 地点	試掘	個人住宅建築	H24.11.21・22	46	縄文・集落跡
	松ヶ崎遺跡	試掘	道路改良	H24.11.29 H25.1.29	33.5	縄文・集落跡
	神子沢久保 (1) 遺跡	試掘	農業用倉庫建築	H24.12.19	38.4	縄文・散布地
	田代遺跡第 1 地点	本調査	個人農地造成	H24.4.27～6.29	2700	縄文・集落跡
	松ヶ崎遺跡第 16 地点	試掘 本調査	個人住宅建築	H24.5.24 H24.7.3～7.21	120	縄文・集落跡
	櫛引遺跡第 4 地点	試掘 本調査	長芋作付	H24.5.25～5.31 H24.6.2～6.12	388	縄文・集落跡
	林ノ前遺跡	本調査	自然崩壊	H24.7.18～9.28	258	古代・集落跡
	八戸城跡第 29 地点	試掘 本調査	個人住宅建築	H24.10.16～10.19 H24.11.2～11.16	154	近世・城館跡
	根城跡岡前館第 56 地点	確認調査	個人住宅建築	H24.4.19～5.12	167	中世・城館跡
受託事業	新井田古館遺跡第 26 地点	本調査	集合住宅建築	H24.7.14～8.11	283	中世・城館跡
	新井田古館遺跡第 27 地点	本調査	集合住宅建築	H24.10.2～10.27	479	中世・城館跡
	新井田古館遺跡第 28 地点	本調査	集合住宅建築	H24.11.21～12.15	978	中世・城館跡
	縄久保遺跡	試掘調査	下水道整備工事	H24.11.27～12.1	124	縄文・散布地
	石橋遺跡	確認調査	下水道整備工事	H24.11.9～11.24	135	縄文・散布地
	重地遺跡	確認調査	下水道整備工事	H24.8.28～9.4	110	縄文・集落跡
	市子林遺跡	確認調査	下水道整備工事	H24.9.25～10.24	164	古代・集落跡



遺跡位置図

《調査事務局》(平成 24 年度)

八戸市教育委員会

教 育 長 松山 隆豊

教 育 部 長 芝 俊光

教 育 部 次 長 佐藤 浩志

是川縄文館長 小林 和彦

副 館 長 前田 美智子

《埋蔵文化財グループ》

埋蔵文化財GL 村木 淳

主幹兼社会教育課主幹 渡 則子

主査兼学芸員 杉山 陽亮

主査兼学芸員 船場 昌子

主事兼学芸員 横山 寛剛

主事兼学芸員 田中 美穂

《縄文の里整備推進グループ》

縄文の里整備推進GL 宇部 則保

副 参 事 大野 亨

主 幹 磯島 康弘

主 査 山野下 貴信

主 査 津久家 崇博

主査兼学芸員 小久保 拓也

主事兼学芸員 市川 健夫

非常勤主事 三浦 賢子

非常勤主事 武山 美郷

非常勤主事 菅澤 早希子

《平成 24 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第 140 集 八戸市内遺跡 30

第 141 集 下水道整備工事に伴う発掘調査報告書 3

石橋遺跡

重地遺跡

市子林遺跡

冷水遺跡

下松苗場遺跡

縄久保遺跡

第 142 集 新井田古館遺跡

掘り day はちのへ 第 16 号

発行年月日 2013 年 6 月 14 日

編集・発行 八戸市埋蔵文化財センターは川縄文館

〒 031 - 0023

青森県八戸市大字是川字横山 1

TEL 0178 (38) 9511

E - m a i l jomon@city.hachinohe.aomori.jp

http://www.korekawa-jomon.jp

(是川縄文館ホームページ)

印 刷 大東印刷株式会社

印刷部数: 1,000 部 印刷経費: 一部あたり 94.5 円

